

## 2004年2月アルゼンチンの政治情勢

2004年3月作成  
在アルゼンチン大使館

### 1. 概要

2月に入り、失業世帯主給付金制度を打ち切られたことに抗議して、ピケテロ・グループ強硬派は、労働省前を中心として全国規模の道路封鎖を実施した。それに対し、キルチネル政権は、衝突を避ける目的で武力を持って制圧しない旨何度も表明したこともあって、大きな衝突事件は起きなかった。ただし、キルチネル政権は、抗議運動側と一切交渉しないとの明確な立場をとったことで、両者の溝は最後まで埋まらなかった。また、デラリア政権期の労働法改正を巡る上院贈収賄疑惑を発端として、政府は、法律自体の正当性を疑い、新労働法案を提出し上院で可決されるなどの成果を得た。

外交面では、ペレス・ロケ・キューバ外相が訪亜し、キルチネル大統領及びビエルサ外相と会談し、二国間の外交関係及び通商関係の強化に努めた。その際、キルチネル大統領は、国連人権委員会での対キューバ人権非難決議で亜は棄権する旨改めて表明した。また、IMF及び対民間債務再編交渉に関連して、ドビルパン仏外相及びアイヒェル独蔵相が訪亜したほか、伯政府との間でIMFとの交渉において共同歩調をとることで合意に至った。

### 2. 内政

#### (1) 臨時国会

2月12日付け官報に、19日から29日まで臨時国会を召集し、労働法破棄法案及び新労働法案を審議すると定めた大統領令が掲載された。

#### (2) 新労働法案の審議

(イ) 11日、キルチネル政権は、労働法破棄法案及び新労働法案を議会に提出した。

(ロ) 24日、上院本会議において、7時間に及ぶ審議の後、労働法破棄法案及び新労働法案が賛成65票、反対1票の賛成多数で可決され、下院に送付された。

#### (3) 人事

(イ) 10日、キルチネル政権は、検事総長候補としてエステバン・リギ元内相を発表した。

(ロ) 18日、キルチネル政権は、罷免されたモリネ・オコンノル最高裁判事の後任候補として、エレナ・ハイトン・デ・ノラスコ民事・商事高等裁判所判事（民法専門）を発表した。

#### (4) 抗議運動

(イ) 6日から12日にかけて、ピケテロ・グループ強硬派のMIJD及びMSDを中心として、政府が10万人の失業世帯主給付金制度を打ち切ったことに抗議し、市内をデモ行進するとともに、労働省前の道路を封鎖した。12日には、その他の強硬派に属するグループに同調して、労働法（デラリア政権期に改正され、上院本会議での採択に際し票の買収がおこなわれたとされる）の破棄を訴えるデモ行進に参加し、道路封鎖を終了した。

(ロ) 12日、ピケテロ・グループ穏健派のCCCは、労働法の破棄、債務返済の中止を求めて、国会議事堂に向かって市内をデモ行進した。

(ハ) 13日、ブエノスアイレス市サンテルモ地区のシモン・ボリバル無料給食所を運営している団体が、同市政府に更なる補助金を求めて、市内大通りの9 de Julioの一部を封鎖した。その際、無理に通過しようとした運転手と抗議運動側が衝突、2名のタクシー運転手が頭部に負傷したほか、タクシーの窓ガラスが割られるなどの物的被害がでた。

(ニ) 19日、MIJDなどのほとんどの強硬派グループは、10時から17時にかけて、失業世帯主給付金制度を打ち切られた人への再給付及び疑惑の労働法の破棄を求めて、約8千人を動員し全国57ヶ所の道路を封鎖した（抗議運動側の当初の予定では、5万人動員し、107ヶ所で実施）。

(ホ) 25日、仏系大型スーパーマーケットのカルフルのトラック運転手の取り扱いに関し、所属先労組を商業労組ではなくトラック労組であるとした労働省の判定にカルフルが従わないことに抗議して、トラック労組約100名が、ブエノスアイレス州にあるカルフル商品集配センターの出入り口を封鎖した。翌26日に、トマダ労相及びベリス司法相が参加して労使双方の代表が協議した結果、カルフルが譲歩するかたちで合意に至り、トラック労組は封鎖を解除した。

### (5) マネーロンダリング

24日、オジャルビデ連邦予審判事は、スイスの秘密口座保有疑惑で、メナム元大統領の資産全ての差し押さえを命じた。

## 3. 外交

### (1) 第12回G15首脳会議

キルチネル大統領は、2月26日から28日の日程でベネズエラを訪問し、27日から2日間開催されたG15首脳会議に出席した。同行者は、クリスティーナ大統領夫人（上院議員）、ピエルサ外相、ソラ・ブエノスアイレス州知事などである。27日には、キルチネル大統領は、ルーラ伯大統領と1時間会談し、両国がIMFとの交渉において共同歩調をとることで合意に至り、具体的に3月10日にサンパウロで両国大統領、外相、経済相による会合を開くことを決定した。その他、チャベス・ベネズエラ大統領及びルーラ伯大統領との朝食会に参加したほか、反チャベス勢力指導者と会談した。

## (2) 仏

3日、ドビルパン外相が亜を訪問し、キルチネル大統領と会談したほか、ビエルサ外相主催の昼食会に出席した。キルチネル大統領との会談において、ドビルパン外相は、亜進出企業の不利な条件改善を要請したほか、国連安保理の場での二国間の強調について約束した（注：亜は2005年－2006年の非常任理事国メンバー）。なお、右会談には、アルベルト・フェルナンデス首相、ビエルサ外相及びラバーニャ経済相が同席した。

## (3) 英国

16日から18日にかけて、ラメル外務政務次官が訪亜した。17日には、ビエルサ外相と約1時間に亘って会談し、フォークランド（マルビーナス）諸島への航空便再開に関する合意書案を作成した。その後のマスコミとのインタビューでは、亜の航空便再開に関し、進展があったとして、今後の行方を楽観視していると述べたが、会談の詳細な中身に関しては明らかにしなかった。また、亜に進出している英系企業について、亜の法的権利における安定性に対する懸念があり、投資促進のためには法的安定性が重要である旨述べた。その他、ラメル政務次官は、ベリス司法相、ニールセン金融次官、タイアナ外務次官（外交政策担当）と会談した。

## (4) 西

18日から20日の日程で、ビエルサ外相及びアニバル・フェルナンデス内相は不法在留亜人の問題解決を目指して西を訪問した。18日には、両大臣はアセベス内相と会談し、亜政府は、西の不法滞在者について検討するため、亜内務省のホームページを通じて在西不法在留亜人の登録を開始する旨明らかにした。

## (5) キューバ

25日から29日の日程で、ペレス・ロケ・キューバ外相が訪亜した。

### (イ) ビエルサ外相との会談（25日）

二国間問題に関し、ペレス・ロケ外相は、米の対キューバ経済制裁の撤廃を要求する国連総会決議への亜の支持に感謝するとともに、2005年から2006年の亜の非常任理事国メンバー入り及びフォークランド（フォークランド）領有権問題に対する亜の立場への支持を表明した。通商問題では、キューバ側から4+1方式でメルコスールとの交渉を今後正式に要請するとの表明があったほか、4月から5月にかけて両国がお互いに通商ミッションを派遣し通商関係を強化する旨確認した。その他、医療分野での協力、キューバの対亜債務問題が取り上げられたほか、多国間問題として、両国は、国際法と国連の役割を尊重した国際協調と多元主義の強化を確認し、国連機能の強化と活性化を擁護した。

### (ロ) キルチネル大統領との会談（26日）

キルチネル大統領は、国連人権委員会での対キューバ人権非難決議について、亜は棄権

する旨改めて確約し、それに対しペレス・ロケ外相より感謝の意の表明があった。他方、ペレス・ロケ外相からは、適切な時期のキューバ訪問の招請があった。

#### (ハ) その他

フィルムス教育相、ゴンサレス・ガルシア厚生相、アリシア・キルチネル社会開発相といった閣僚をはじめ、カマーニョ下院議長、エチエガライ共産党書記長、イバラ・ブエノスアイレス市長、オベイドウ・サンタフェ州知事、ブスティ・エントレリオス州知事、ジャンタッシオ・ブエノスアイレス副州知事と会談した。また、サンタフェ州ロサリオ市にあるチェ・ゲバラの生家を訪問した。

#### (6) パラグアイ

23日、キルチネル大統領は訪亜中のドゥアルテ・パラグアイ大統領と会談し、中断しているヤシレタ・ダム建設工事を完了させることを約束した。また、アグアペイ川（パラグアイ側）流域の堤防建設等のために約600億ドルの入札発表を行った。

#### (7) エクアドル

3日、スキランダ・エクアドル外相は、ビエルサ外相の要求に応じ、モリナ在亜エクアドル大使を召還する旨発表し、同大使は4日に帰国した。エクアドル政府は、モリナ大使が1月23日、軍政期の人権侵害で自宅軟禁中のマソン元陸軍少将を外出させたとして、ビエルサ外相から本国召喚を要請されていた。右発表後、スキランダ外相は、今回の外交問題は、最良の方法で、かつ最高のタイミングで乗り越えたと考えていると二国間関係に何ら影響を与えるものでなかった旨強調し、事件は遺憾ながらも絶対的に個人的なものであると付け加えた。それに対し、ビエルサ外相は、迅速かつプロフェッショナルな対応に感謝すると述べた。

#### (8) ハイチ

27日、亜外務省はコミュニケを発表し、亜政府は、在ハイチ亜大使館を通じて在留亜人の身の安全を確認しているほか、国境警備隊を派遣して大使館の警備及び亜人の退避を行った旨伝えた。また、外務省ホワイト・ヘルメット委員会を通じて、3月1週目に人道支援を行う用意があり、具体的にはC130輸送機で10トンの食糧、医薬品、飲料水を送る計画である旨明らかにした。

#### (9) 要人往来

##### (イ) 来往

3日 ドビルパン仏外相

16 - 18日 ラメル英国外務政務次官

18 - 19日 アイヒェル独蔵相

- 23日 ドゥアルテ・パラグアイ大統領
- 23日 パストル西衛生相
- 24日 ゴフ・ニュージーランド外相
- 25 - 29日 ロケ・ペレス・キューバ外相
- (ロ) 往訪
  - 9日 ラバーニャ経済大臣、ケーラ I M F 専務理事と会談するため米国へ
  - 18 - 20日 ビエルサ外務大臣及びアニバル・フェルナンデス内務大臣、アセベス内相と会談するため西へ
  - 26 - 28日 キルチネル大統領及びビエルサ外務大臣、第12回G15首脳会談に出席するためベネズエラへ